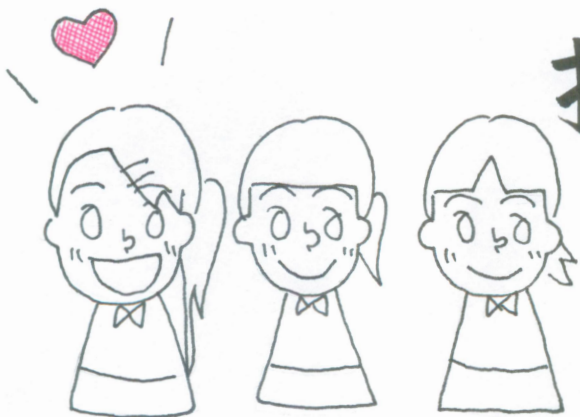


宿題は 廃止すべきか

Team: Show New 道



担当 本文
構成
調査



宿題を廃止すべきか

study garden アスマラ

(1) はじめに

私たち3人は高校2年生だ。「宿題を廃止すべきか」という課題を聞いた時、率直に永遠に答えはでないと感じたが、私たちが考える最良の答えを校長先生になったつもりで提案する。

(2) 現状把握 ~実際に課されている宿題~

M高校の場合

週末課題：数学ワーワ

↳ 1週間で進んだ授業の範囲

(先生は1日1時間くらいだと想定)

S高校の場合

1番少なくマ → 学校指定のワーワを2冊〜3冊。(数学を除く)
だいたい1時間程度で終わる。

1番多クマ → 数学ワーワ 20冊〜30冊以上, 英や国ワーワ 2冊〜3冊。
1日では終わらず、最低2日は必要。

週末課題

H高校の場合

	週間課題	その他
国	ワーワ(古・漢・現のうち1つ)[60分]	
英	英単語プリント[60分] 長文・文法プリント[90分]	プリント} [150分] 予習 }
数	問題集[150分]	予習[120分]

(3) 宿題を課した先生の意図 (インタビュー)

M高校 (数学のT先生)

- ・ 1日1時間と想定。最低限やってほしい量・難易度を課しており、生徒にとって無理のない内容。
- ・ 問題集を毎日やってほしい。宿題を課しないとテスト前にまとめてやる生徒が多くなり定着しないから。どの生徒も主体的に計画性を持って取り組めるのなら出さない。

S高校 (英語のN先生)

- ・ 1日1時間と想定。難易度は教科書レベルで難しいものではない。
- ・ 英語はどれくらい親しんだかが勝負の教科。授業内容の定着のためにたくさんプリントにして課している。

H高校 (英語のI先生)

- ・ 週間課題でいうと1日30分と想定。英語の授業がある前日の予習などは最低60分は取り組んでほしい。
- ・ 学習週間を身につけさせたい。大学受験を希望している生徒がほとんど。→ゼロからだ自分じゃ何をやれば良いかわからない。3年生では課題が少なくなり、自力でやるが多くなるだろう。

(4) 生徒が考える現状の宿題のメリット・デメリット

1) メリット

M高校

- ・ 1年の頃、自分で予習をしていただけで、学校の問題集は宿題でなかった。すると授業の進度に合わせて取り組むことができなかった。2年になると宿題になったことで確実に授業の復習ができるようになった。

S高校

- ・ 教科書に倣った復習プリントだから、授業ノートや教科書の解説を見ながらでき、理解の確認ができる。

H高校

- ・ 予習プリントがあることで、自分の分からないところを明確にしてから授業に臨

めた。

- ・英単語プリントは、SHRテストの出題範囲とリンクしており英単語を覚えやすかった。量が多いのもよい。

2) デメリット

M高校

- ・数学に関してはなし。ただし、夏季休暇に出される英語のワークに関しては負担に感じられる。難しく、やっけていて学力の上昇が感じられないからだ。

S高校・H高校

- ・量が多く答えを写しているだけになり、勉強にならない。
- ・最近、宿題として課されていた授業の復習課題がなくなった。

その結果復習をする生徒が格段に減った。

(5) 理想的な宿題

本来宿題は、学力を向上させるために課されるものである。しかし(3)からも分かるとおり、実際には足かせになっている場合も少なくない。1番良いのは宿題などなくても生徒が自主的に学習する状態だが、現実的には誰もがそうできるわけではない。よって私たちが思う理想の宿題制度は、まず宿題が要らないという者を募り、明確な理由があれば課さず、課す者には個人に合ったレベル・量を与えるものだ。

宿題は邪魔にしかならず自らできる人にとっては必要のないものだ。宿題を課されることによって、自分のやりたい勉強をやる時間がなくなる。実際に、OECD生徒の学習到達度調査(PISA2012)では、オランダ・フィンランドは上位にいるが宿題はあまり課されていないという。つまり、主体的に学習できる生徒にとって宿題はなくても困らない。そういった生徒は学力も上位にいることが多く、宿題はいらないと申し出るだろう。

一方で、宿題を課されなければ何をすればよいかわからないが、出されれば必ずこなせる人もいる。このような生徒には、個人の能力範囲の最大の量・難易度の宿題を出すべきだ。ねばり強く努力を続けることができるため、適切な宿題であれば学力向上が望める。

また、出されればやろうと努力するが終えられない生徒には、どうして意欲があるのに出来ないのか原因を特定し、それをふまえて量・難易度を再設定する。ここで、簡単に解ける問題から始め徐々に難しい問題へレベルアップさせる。言われた

ことを確実にやりぬく事は将来社会人になったときに必要不可欠な能力である上に、それを終わらせるための忍耐力・自制力が身につく。

(6) 現実と理想のギャップ

まず、個人一人一人に合わせた宿題を課すのは先生側に対して多大な負担となる。第一、それが出来ていればすでにやっているはずである。また、宿題を課されなければ何をすればよいかわからないが出されれば必ずこなせる人は、限界ぎりぎりの課題を出すと、勉強ではなく「勉強みたいなもの」になり効果が薄れたり、無理をして体調を崩す生徒が多くなる。「勉強みたいなもの」とは、ただ提出することだけが目的の学習内容を理解しない作業のこと。じっくりと問題を解く時間がないことがこの原因だ。

(7) ギャップを埋めるためには

ここで、宿題の定義について確認する。

宿題：学校などで、家庭で学習するように児童・生徒に指示する課題。

(明鏡国語辞典)

宿題：学校で学習したことの復習または予習のため家庭でやらせる課題。

(広辞苑)

宿題は本来、生徒の学習を手助けするものであったはずである。しかし答えを写して提出する者、目的が終わらせることにすり替わってしまう者もいる。つまり、宿題が宿題としての機能を失っている。この状況は非常に勿体無いと考える。先生が生徒のために課している宿題が、生徒にとっては大きな負担になっている。上述したM高校の先生の言葉で「どの生徒も主体的に計画性を持って取り組めるのなら出さない。」とあるように、生徒が自主的に学習するのなら先生にとっても負担になる宿題は課されたりしない。

ここに本質がある。私たち生徒の勉強が勉強としての効果をもたらすための一番の近道は、好きという感情である。集中していない状態で何時間勉強しても効果は小さい。義務感だけで嫌だと嘆きながら行う学習と、やりたいと自ら能動的に取り組む学習とでは、同じ時間机に向かっているとしてもその学習効果は格段に違ってくる。つまり、主体的に取り組むか否かが宿題の効果を大きく左右するのだ。「好きこそ物の上手なれ」という言葉があるように、バレエや絵は始めた頃に褒められて好きになり「もっとうまくなりたい!」と思って練習を重ねて上達し、さらに好きになってもっと上達するという好循環を私たちは実際に経験している。

そこで、これらをふまえて以下の具体策を提案する。

i) ICT（情報通信技術）を活用した個々人に合った宿題

ICTを利用することによって先生の負担が軽減されるし、一人一人のレベルや進度に合った学習内容が提供できる。

ii) 授業内容の改革

① ICTによる反転学習

② 反転学習の導入によって楽しい授業の実現

反転学習は「すらら」などで予習をして学校の授業に臨むことで、これにより授業の理解が進む。その結果、宿題の効果が上がり学習内容の定着率も高まる。また、生徒たちが予習してくることで、先生は科目の魅力を伝える楽しい授業の展開が可能になる。

（8）校長の言葉

校長の大山田です。

本校において、宿題は廃止しません！

ただし、上で述べた新しい宿題の道を開拓します！

Show New 道！ Yeeh!

